

平成 30 年 11 月 26 日

各 位

株式会社ドーン

救命ボランティアによる A E D 運搬システムの実証実験を柏市で開始

株式会社ドーン（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長：宮崎正伸）は、柏市、国立大学法人京都大学環境安全保健機構健康科学センター、一般財団法人日本 A E D 財団と連携し、救命ボランティアによる A E D 運搬システムの実証実験を開始します。

1 千葉県柏市における実証実験の概要

（1）期間

平成 30 年 12 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで

（2）内容

柏市内（コンビニエンスストア 136 台・救急救命ステーション 261 台、合計 397 台）の自動体外式除細動器（以下「A E D」）と救命ボランティアをスマートフォンアプリによって連携させる取り組みとして、無料の専用アプリ「A E D G O」に救命ボランティアとして登録した方に、柏市消防本部から駆けつけ救命要請を行う実証実験を実施し、その効果の検証等を行います。

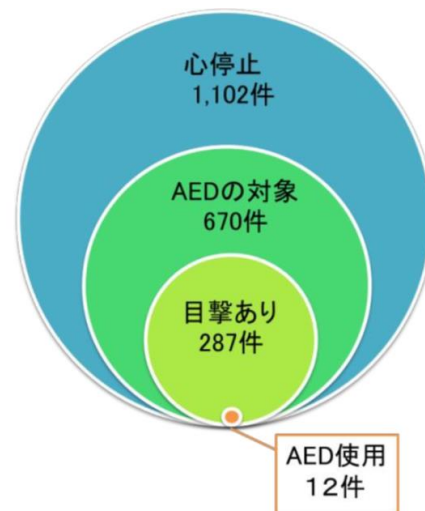
（3）柏市における心停止事案の現状と課題

柏市では、平成 27 年から平成 29 年までの 3 年間における心停止事案の合計 1,102 件のうち、市民によって A E D が使用されたのは僅か 12 件（1.1%）にとどまっており、また、倒れるところが市民に目撃されたケース 287 件のうち、4.2%の人しか A E D が届いておらず、A E D による救命処置の促進が課題となっています。

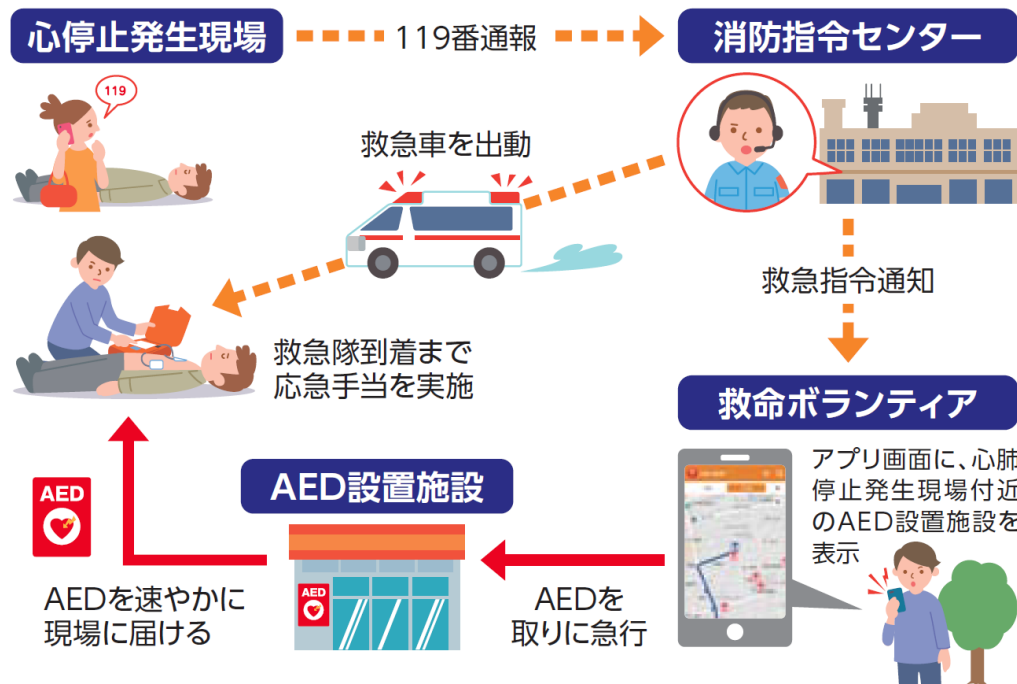
（4）A E D G O とは

京都大学環境安全保健機構（石見拓教授）と株式会社ドーンが共同開発している A E D G O は、119 番通報を受けた消防が、心停止の疑いのある事案に対して、あらかじめ登録された救命ボランティアに駆けつけ救命要請を通知し、この通知を受けた最寄りの救命ボランティアが現場に A E D を届けるための情報（駆けつけ先の住所・現在地から駆けつけ先までの経路・利用可能な A E D に関する情報等）を配信するシステムです。

このシステムにより、倒れた人のところに救急車の到着より早く A E D を届けられれば、より多くの人に A E D が使用され、救命率が上がることが期待できます。



(AED運搬システムの概要)



2 背景

心停止者の救命率は電気ショックが1分遅れる毎に10%低下しますが、通報から救急車到着までの時間は全国平均で8.5分を要することから、処置をせずに救急車の到着を待つだけでは手遅れになるケースがほとんどです。救急車到着までの間に、居合わせた市民が心肺蘇生とAEDによる電気ショックを行えば、救命率は50.2%に上がりますが、AEDによる電気ショックが行われるケースはわずか4%にとどまります。日本国内には市民が利用できるAEDが50万台以上設置されており、世界有数のAED大国といえますが、十分に活用されていないのが現状です。

以上

<ご参考> 株式会社ドーンについて

地理情報システム（GIS）を構築するための基本ソフトウェアやGIS関連システムの開発・販売を事業の柱とし、近年は防災・防犯分野で使われる空間情報技術を提供するクラウドサービスに注力しています。

<問い合わせ先>

株式会社ドーン総務部 IR 担当

TEL : 078-222-9700 E-mail : dawn@dawn-corp.co.jp